

平成29年度 厚木東高等学校 年間指導計画

教科・科目	芸術・音楽 I	学年	第1学年	教科書	教育芸術社「高校生の音楽1」
		単位数	2単位	副教材	教育芸術社「高校生のための音楽研究ノート」

学習目標	1.楽譜を見て音程、リズム、フレーズ等に関心を持ち、意欲的に歌唱表現をする。 2.楽器の体験を通し、固有の表現方法を感じ取って器楽演奏をする。 3.楽曲における作曲者の人間像、諸作品の位置などを理解し、楽曲を鑑賞する。 4.音楽史を学び、時代と共に音楽が変化してきた事実を理解する。			
学習方法	一斉授業と個別指導を組み合わせで行う。			
学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨	
	①	音楽への関心・意欲・態度	音楽や音楽文化に関心を持ち、歌唱・器楽・創作・鑑賞の学習に主体的に取り組もうとする。	
	②	音楽表現の創意工夫	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、歌唱・器楽・創作の音楽表現を工夫し、どのように歌うか、演奏するか、音楽を作るかについて表現意図をもっている。	
	③	音楽表現の技能	創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱・器楽・創作の技能を身に付け、創造的に表している。	
	④	鑑賞の能力	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、楽曲や演奏を解釈したり、それらの価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わって聴いている。	

評価の観点	①音楽への関心・意欲・態度	②音楽表現の創意工夫	③音楽表現の技能	④鑑賞の能力
授業観察	○	○	○	
実技テスト	○	○	○	
筆記テスト			○	
プリント提出	○	○	○	○
観点別比重	20%	30%	30%	20%

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法
1	音楽に親しむ	8	歌唱	・校歌 ・日本歌曲 ・イタリア歌曲 ・ドイツ歌曲	①積極的に声を出そうとしている。 ②歌詞の内容を感じ取り、イメージを持って歌唱表現を工夫する。 ③楽譜通りに歌うだけでなく、自分の声に合わせた歌唱表現を追求する。	・発声練習 ・校歌及び課題曲の歌唱 ・課題曲から任意の1曲を選択し実技テスト(独唱)
		6	鑑賞	楽曲の鑑賞	④作曲者の生涯を学び、それが楽曲にどう影響しているかを感じ取る。	・鑑賞レポート提出
	音楽の歴史を知る	4	音楽史	西洋音楽史	③④音楽史上の各時代ごとの特徴を捉え、音楽史の流れをつかむことができる。	・ビデオ鑑賞 ・プリント学習 ・鑑賞レポート提出 ・筆記テスト
	音楽の仕組みを考える	4	楽典	音符・休符・音名・音程など	③楽典の基礎を理解している。	・プリント学習 ・筆記テスト
6		歌唱	混声合唱	①合唱におけるパートの役割を理解する。 ②歌詞の内容にふさわしい表現方法を工夫する。 ③他パートとのハーモニーを意識しながらより美しい表現を追求する。	・パート練習 ・混声合唱	

2	舞台芸術を学ぶ	4	鑑賞	オペラの鑑賞	④オペラに興味を持ち、多彩な登場人物の把握と複雑なストーリーの理解ができている。	・DVD鑑賞 ・レポート提出
	アンサンブルでの自分の役割を自覚する	14	器楽	・グループで鍵盤楽器を使ったアンサンブルを行う。	①限られた台数の鍵盤楽器をうまく配分し、能率的な練習ができている。 ②各自の能力に合ったパートを選び、その範囲での最大限の表現を工夫する。 ③他者と協力しながら一つの楽曲を効果的に仕上げている。	・鍵盤楽器の基礎(必要に応じて) ・2～3人で任意のグループを作り、各自パートを選んでアンサンブル ・実技テスト(グループ)
	合唱曲に取り組む	10	歌唱	混声合唱	①パート練習で、進んで音取りをしたり自分のパートを早く覚えようとしていたりして真剣に取り組んでいる。全体合唱で、積極的に声を出したり他のパートとのバランスを考えて歌えている。 ②発声法や細かいフレーズの表現などにも興味を持ち、歌唱法に工夫が見られる。 ③自分たちの合唱を客観的にとらえ、よりよくなるよう努力している。 「合唱におけるパートの役割分担を、社会生活における役割分担に置き換えて考えられるような示唆を与え、全体のパートあるいは個人の役割を自覚できるようにする」	・パート練習 ・全体練習 ・自分のパートを1人ずつ歌う実技テスト
3	自己の限界に挑戦する	11	演奏会	曲目・演奏形態・演奏人数すべて自由な演奏会	①②③④練習状況も演奏会本番と同等の割合で評価し、「限られた楽器・練習スペース等を各グループでうまく分かち合い能率的に練習ができているか」「練習記録ノートを誠実に記録しているか」「意欲的に練習に取り組んでいるか」等を観察する。  演奏会本番は「技術」「熱意」「段取り」を総合的に評価する。	・メンバー決め ・練習計画 ・練習 ・演奏会(実技テスト)
	伝統音楽を学ぶ	3	鑑賞	雅楽について雅楽に使われている楽器を理解し、独特な音色を味わう。	④雅楽を身近なものとして感じられている。	・映像鑑賞 ・鑑賞レポート提出
合計時数(50分授業)		70				